

# キャンプ体験が看護学生の『看護の視点』に与える影響

岸田 若菜 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 黒澤 毅

キーワード：教育キャンプ，看護学生，看護の視点

## 1. 序論

看護では、患者や人と接する機会が多いことからコミュニケーションをとることや情報を共有することが重要である。一方、野外教育の効果には、心理的側面、社会的側面への効果、環境・行動的效果などが挙げられており、野外教育の効果が最も発揮しやすい場の1つとして教育キャンプが挙げられている<sup>1)</sup>。このことから、キャンプを体験することにより、看護に大切な資質や能力である『看護の視点』が養われるのではないかと考える。しかし近年、教育キャンプを行う看護学校が減少していることから、看護学校の教育キャンプ減少に疑問を感じた。

そこで本研究では、キャンプ体験が看護学生の『看護の視点』に与える影響を明らかにすることを目的とする。目的検証のため、以下の課題を設けた。

課題 1：看護師として必要な資質・能力を測るための『看護の視点』尺度を作成する。

課題 2：キャンプ体験が看護学生の『看護の視点』に与える影響について明らかにする。

## 2. 研究方法

### I. 『看護の視点』尺度の作成

看護師 116 名を対象に、筆者が独自に作成した自由記述式のアンケートを実施、収集した 939 項目のうち、言葉の意味が重なるものは1つにまとめ、あいまいで理解しにくい項目については排除した。KJ 法におけるグループ分け手法を用いて項目を分類・検討した結果、9 グループ 40 項目からなる『看護の視点』尺度を作成した。グループは、時間や導線の短縮を表す「時間の感覚」、身の回りやその環境に対する配慮を表す「環境への配慮」、人の行動としての一定の秩序を表す「自己の規律」、困難な状況などに適応することを表す「適応能力」、他者全体に対して基本となる対応を表す「対人への対応」、他者を敬う気持ちなどから生まれる行動を表す「対人への敬意」、個別性を重視した人に対する接し方を表す「対人への接し方」、事故や間違いを起こさないような安全に対する配慮を表す「安全への配慮」、報告や連絡、相談、申し送りを表す「情報の共有」である。

### II. キャンプ体験が看護学生の『看護の視点』に与える影響

【調査対象】2013 年 9 月 24 日～26 日に行われた BIWAKO キャンプに参加した G 看護大学の学生 2 回生 22 名を対象とした。

【調査内容】筆者が作成した『看護の視点』尺度を用いてキャンプ初日 (pre)、及びキャンプ最終日 (post) に実施した。

【プログラム】コミュニケーションをとることや互いの思いを受け止め、支援できる強さと優しさを養うことを目標とし、プログラムの特有の効果や負荷について十分に考慮した上でカヤック、ナイトプログラム、沢登り、夕食コンテスト、キャンプファイヤーなどを実施した。

## 3. 結果と考察

キャンプに参加した看護学生の『看護の視点』得点に pre-post で有意な差が認められた。キャンプ体験は看護学生の『看護の視点』を向上させた。また、

『看護の視点』を構成するグループごとにみた結果、「時間の感覚」に有意な傾向がみられ、その他のグループすべてに有意な差が認められた。すなわち、グループ得点はすべて向上した結果となった。これらの結果を表 1 に示す。

表 1 『看護の視点』得点の平均と標準偏差

	N	pre		post		z 値
		M	SD	M	SD	
『看護の視点』	22	130.27	23.23	151.14	28.46	-3.70***
時間の感覚		8.95	2.42	10.23	2.45	-1.92†
環境への配慮		9.32	2.36	11.05	2.57	-2.67**
自己の規律		17.86	3.97	22.18	5.08	-3.68***
適応能力		13.55	3.04	15.82	3.11	-3.80***
対人への対応	22	21.73	3.55	24.41	3.84	-3.49***
対人への敬意		13.55	2.44	15.36	3.16	-3.42***
対人への接し方		20.14	3.91	22.14	4.85	-2.62**
安全への配慮		15.68	3.77	18.45	3.85	-3.78***
情報の共有		10.41	2.13	11.50	2.26	-2.39*

†p<.10 \*p<.05 \*\*p<.01 \*\*\*p<.001

キャンプや沢登り、カヤックなどを初めて行う者ばかりで、不安や恐怖を抱いている者もいたが、仲間と共に協力し達成することで協力することの大切さ、仲間への感謝が生まれた。野外炊事やキャンプ体験を通して、仲間とコミュニケーションをとる機会が多くなったことで、相手を思いやる発言や、相手のことを考えて行動することの大切さを学んだと考える。これらのことが向上した要因であると考えられる。

また、pre 時における『看護の視点』得点の上位群 (N=11)・下位群 (N=11) 別に比較した結果、両群ともに有意な差が認められ、向上した結果となった。上位群は、獲得していた『看護の視点』をキャンプで発揮・応用し、下位群は、キャンプ体験によって『看護の視点』を新たに学び、獲得したことが『看護の視点』を向上させたと考えられる。

さらに、pre から post にかけて『看護の視点』得点の向上を高向上群 (N=8)・低向上群 (N=11) 別に比較すると、両群とも有意に向上した。低向上群の特徴として、感想文に「楽しかった」という記述が多かった。低向上群がより高い効果を得るためには、「楽しい」という体験で終わるのではなく、なぜ楽しいと思えたのか、楽しいを通して何を学んだのかをふりかえる時間が重要であると考えられる。

## 4. まとめ

『看護の視点』は、9 つのグループで構成された。また、キャンプ体験は、看護学生の『看護の視点』を向上させたことが明らかとなった。上位群・下位群別で比較すると、『看護の視点』全体得点はキャンプ前における『看護の視点』得点に関わらず、両群とも有意に向上した。また、高向上群・低向上群別で比較すると、『看護の視点』全体得点は両群とも有意に向上したものの、両群に特徴がみられた。

引用・参考文献

- 1) 自然活動研究会 (2011)：野外教育の理論と実際。杏林書院
- 2) 田中博晃 (2010)：KJ 法入門：質的データ分析法として KJ 法を行う前記。外国語教育メディア学会 (LED) 関西支部。メソドロジー研究部会 2010 年度報告論集。p17-29